



暖房、点検、ヨシ！

～5つの点検で火災を未然に防ぎましょう～

寒い季節には欠かせない暖房器具ですが、毎年火災事故を含む多くの事故が発生しています。「去年問題なかったし、今年もきっと使える。」そんな思い込みは事故の元。安全に冬を乗り切るためには、シーズン初めや日々の点検が大切です。

独立行政法人製品評価技術基盤機構 [NITE (ナイト)、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原] は、暖房器具の事故を防止するために、点検方法や使用方法についてポイントを紹介します。



電気ストーブにふとんが接触して発火



ガソリンの誤給油により石油ストーブから発火

2019年から2023年までの5年間にNITE (ナイト) に通知された製品事故情報^{※1}では、主な暖房器具^{※2}の事故が582件ありました。そのうち、電気ストーブ・ファンヒーター (以下、電気暖房器具) と石油ストーブ・ファンヒーター (以下、石油暖房器具) の事故が毎年約8割以上を占めています。

電気暖房器具及び石油暖房器具について、それぞれ以下の5つの点検を実施し、事故を未然に防ぎましょう。

また、神戸市消防局に御協力いただき、火災が発生した時の対処法についてもご案内いたしますので、身を守るための参考にしていただければ幸いです。

■電気暖房器具の5つの点検

- ☑1. リコール対象品かどうかを確認する。
- ☑2. 電源コードや電源プラグが変形・破損していないか、コンセントがたこ足配線になっていないかを確認する。
- ☑3. 機器と周囲の壁や可燃物との距離が十分に確保できていることを確認する。
- ☑4. 本体に変色や変形等の異常がないかを確認する。
- ☑5. 転倒時オフ機能が正常に作動するか確認する。

■石油暖房器具の5つの点検

- ☑1. ほこりがたまっていれば取り除く。
- ☑2. 対震自動消火装置が正しく作動することを確認する。
- ☑3. 燃料は新しい灯油を使い、昨シーズンの灯油を使用しない。
ガソリンを灯油とは別の場所で保管するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底する。
- ☑4. カートリッジタンクの給油口ふたが確実に閉まっていること、漏れがないことを確認する。
- ☑5. 機器と周囲の壁や可燃物との十分な距離が確保できていることを確認する。

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報 (被害なし) を含みます。

(※2) 石油ストーブ・石油ファンヒーター、電気ストーブ・電気ファンヒーター、ガスストーブ・ガスファンヒーター、オイルヒーター

1. 事故の発生状況

NITE が受け付けた製品事故情報のうち、2019 年から 2023 年までの 5 年間に発生した主な暖房器具の製品事故 582 件について、事故発生状況を以下に示します。

1-1. 年別の事故発生件数

NITE が受け付けた主な暖房器具の製品事故情報について、年別の事故発生件数を図 1 に示します。毎年約 8 割以上が「電気暖房器具※³」と「石油暖房器具」の製品事故となっており、件数は横ばい傾向です。

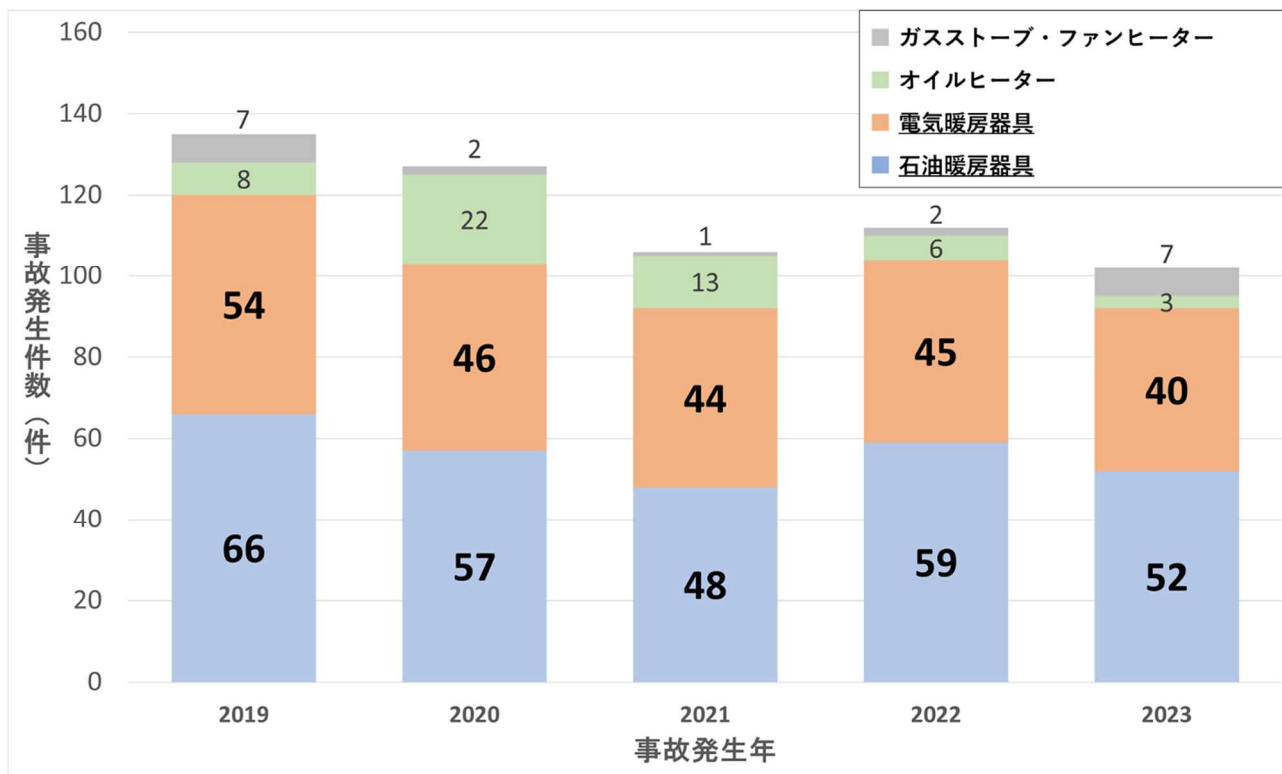


図 1：年別の事故発生件数

1-2. 月別の事故発生件数

電気暖房器具及び石油暖房器具の過去 5 年間の事故発生月別の事故発生件数を図 2 に示します。ともに 11 月から事故の発生件数が急激に増え、4 月頃まで一定の割合で事故が発生しております。

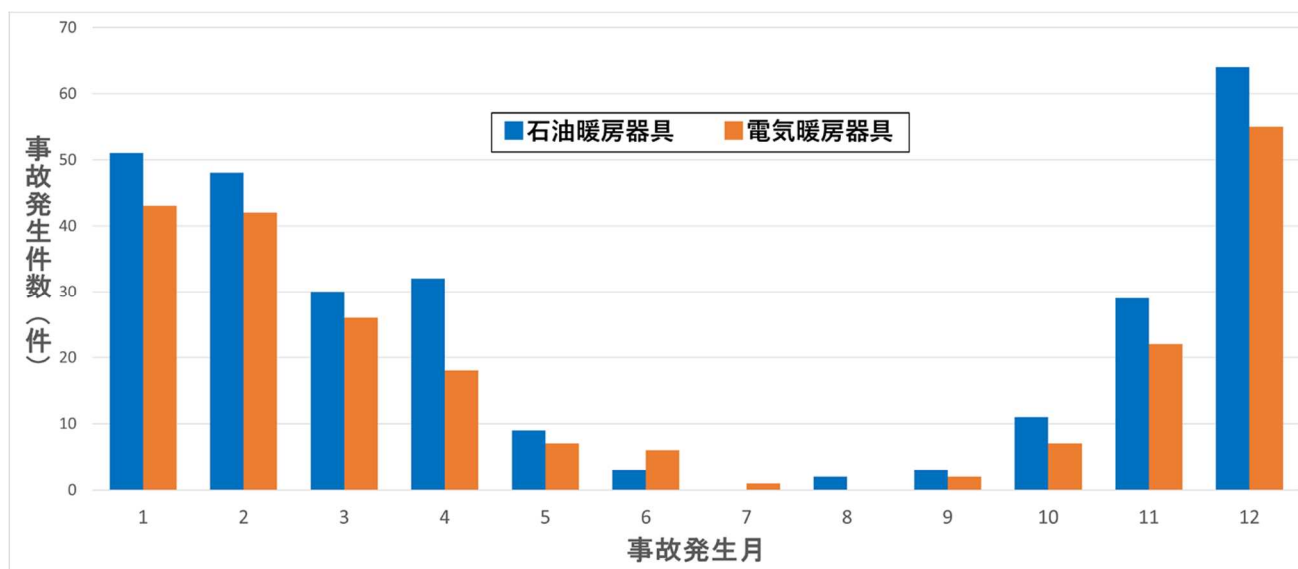


図 2：月別の事故発生件数

(※3) 電気暖房器具にはハロゲンヒーター、パネルヒーターを含みます。

1-3. 年代別事故発生件数

電気暖房器具及び石油暖房器具の過去5年間の被害者の年代別事故発生件数を図3に示します。電気暖房器具では「50歳代」、石油暖房器具では「80歳代以上」が最も多くなっています。特に石油ストーブでは高齢者^{※4}の割合が高くなっていますので、ご家族等まわりの方も一緒に点検しましょう。また、万が一の火災に備えて、後述の消火方法や避難の目安もご確認ください。

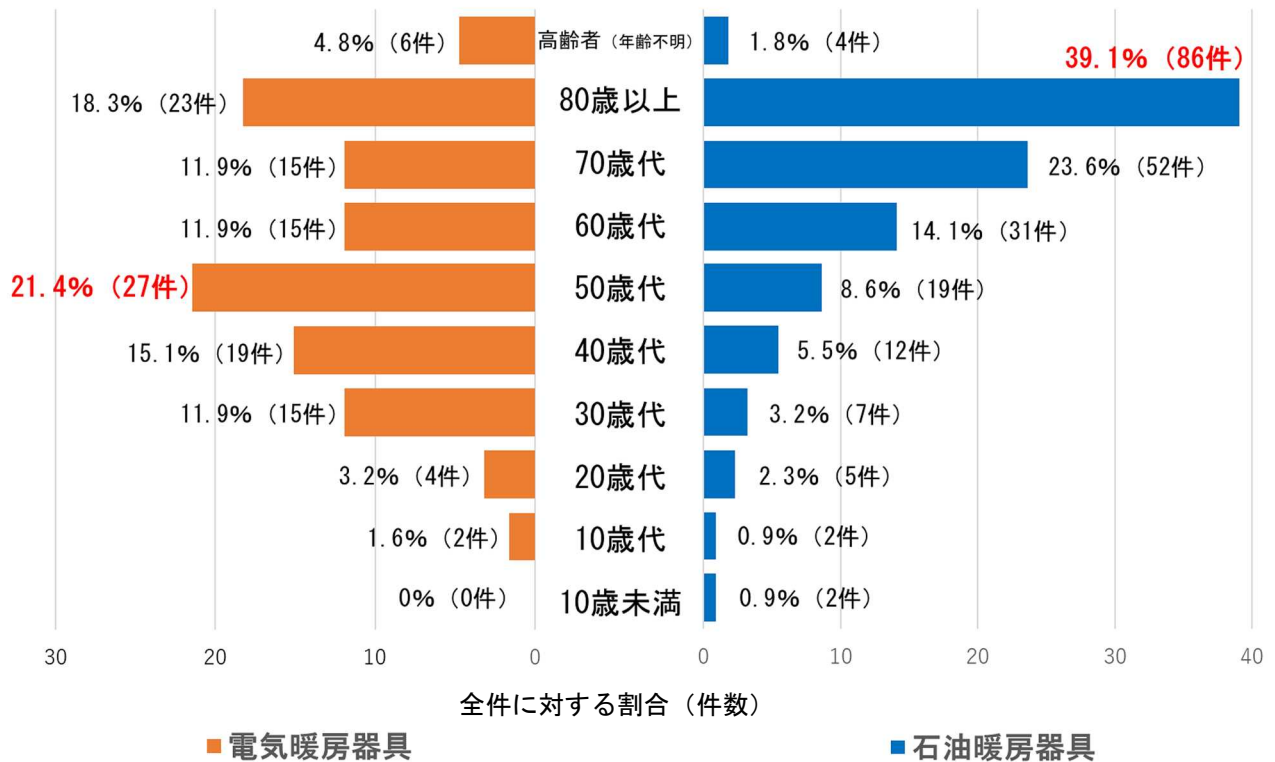


図3：年代別事故発生割合 ※年齢不明除く

(※4) 本資料では、内閣府の高齢社会白書の定義に合わせて65歳以上を高齢者としています。

1-4. 電気暖房器具の事故状況

1-4-1. 事故の被害状況

電気暖房器具の過去5年間の製品事故229件における被害状況別の事故件数を表1に示します。火災事故や周囲への拡大被害^{※5}が多く発生しています。

表1 被害状況別の事故件数^{※6}

被害状況		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	総計
人的被害	死亡	4(5)	4(4)	2(2)	2(2)	3(3)	15(16)
	重傷	1(2)	1(1)	2(2)		1(1)	5(6)
	軽傷			3(3)	3(5)	0(2)	6(10)
物的被害	拡大被害	23	29	23	27	25	127
	製品破損	26	12	14	13	10	75
不明						1	1
総計		54(7)	46(5)	44(7)	45(7)	40(6)	229(32)
うち火災件数		34	42	32	38	36	182

(※5) 製品本体のみの被害(製品破損)にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

(※6) ()は被害者数。物的被害(製品破損または拡大被害)があった場合でも人的被害のあったものは、人的被害に区分している。また、人的被害(死亡・重傷・軽傷)が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていない。

1-4-2. 事故の事象別ワースト

原因の特定ができた事故情報^{※7}における事故の事象別ワーストを表2に示します。リコール対象製品での事故が最多となっています。次に、内部配線が首振り部等で断線したことや接続部が異常発熱した事故が多く、3番目に電源コードが屈曲で断線したことによる事故が多く発生しています。

表2 事故事象別の被害件数

事故事象	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	総計	うち火災
リコール対象製品の事故(リコール実施後)		1		14	34	49	31
内部配線の接続部または断線して異常発熱・発火				18	11	29	20
電源コードの屈曲による断線で異常発熱・発火				8	6	14	9
ヒーターに可燃物が接触して(又は放射熱で)出火	1	1	3	7		12	12
電子部品の異常発熱・発火				3	2	5	5
転倒時オフスイッチの異常発熱、動作不良				4		4	4
電気回路基板の異常で発火	1			2	1	4	3
電源コードを改造・修理したことによる異常発熱・発火				4		4	3

(※7) 事故原因の特定までには至っていないが、その事象が原因である可能性が高い事故も含まれます。

1-5. 石油暖房器具の事故状況

1-5-1. 事故の被害状況

石油暖房器具の過去5年間の製品事故282件における被害状況別の事故件数を表3に示します。火災事故の他、死亡事故等の人的被害が多くなっています。

表3 被害状況別の事故件数^{※8}

被害状況		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	総計
人的被害	死亡	9 (10)	7 (7)	10 (13)	12 (13)	11 (13)	49 (56)
	重傷		1 (2)	2 (3)	4 (4)	2 (2)	9 (11)
	軽傷	8 (17)	8 (15)	8 (14)	11 (22)	6 (9)	41 (77)
物的被害	拡大被害 ^{※9}	37	37	21	28	27	150
	製品破損	12	4	7	4	5	32
不明						1	1
総計		66 (27)	57 (24)	48 (30)	59 (39)	52 (24)	282 (144)
うち火災件数		65	57	45	58	51	276

(※8) ()は被害者数。物的被害（製品破損または拡大被害）があった場合でも人的被害のあったものは、人的被害に区分している。また、人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていない。

(※9) 製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

1-5-2. 事故の事象別ワースト

原因の特定ができた事故情報^{※10}における事故の事象別ワーストを表4に示します。カートリッジタンクに給油した際の灯油漏れ、ガソリンの誤給油、洗濯物等の可燃物の接触による事故が多くなっております。

表4 事故事象別の被害件数

事故事象	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	総計	うち火災
給油口ふたの閉め忘れ及び締め付け不良などにより漏れた灯油に引火	8		1	24	3	36	36
ガソリンの誤給油により出火			6	19	2	27	24
可燃物が接触して（又は放射熱で）出火	5		3	15	1	24	23
清掃不足による異常燃焼や堆積物への引火	2	2		6	4	14	13
灯油の拭き残しに引火			1	1	3	5	5
スプレー缶が近接			2	1		3	3
製品の取付不良による異常燃焼や過熱			1	1		2	2
風が当たり異常燃焼				1	1	2	2

(※10) 事故原因の特定までには至っていないが、その事象が原因である可能性が高い事故も含まれます。

2. 事故事例

2-1. 電気暖房器具の事故事例

■リコール対象製品の事故（電気ストーブ）

事故発生年月 2023年12月（静岡県、年齢性別不明、製品破損）

【事故の内容】

電気ストーブを焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

当該製品の強弱切替え用に使用されているダイオードが不良品であったことにより、ダイオードが異常発熱し、出火したものと考えられる。

なお、輸入事業者は再発防止を図るため、2016年3月よりホームページに情報を掲載し、新聞社告を行うとともに、販売店への協力要請を行い、さらに2021年6月に再度ホームページに情報を掲載して、対象製品について回収し、返金、又は代替品への交換対応を実施している。

【[NITE SAFE-Lite](#) 検索キーワード例（タブを「リコール情報」に切り替え）】

電気ストーブ

■電源コードの断線（電気ストーブ）

事故発生年月 2023年2月（福岡県、年齢性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

電気ストーブを使用中、電源コード付近から火が出て、床が焦げた。

【事故の原因】

本体側の電源コードプロテクター付近に過度な応力が繰り返し加わったため、芯線が半断線し、短絡・スパークが生じたものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「電源コードは無理に曲げる、引っばるなどしない。火災の原因になる。」旨、記載されている。

【[NITE SAFE-Lite](#) 検索キーワード例】

電気ストーブ 電源コード 半断線

■可燃物の接触（電気ファンヒーター）

事故発生年月 2022年2月（東京都、年齢不明・男性、拡大被害及び軽傷）

【事故の内容】

電気ファンヒーターを使用中、電気ファンヒーター及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が火傷を負った。

【事故の原因】

膝に掛けていたはんてんがずり落ちたことで、はんてんが当該製品に接触、又は放射熱により焼損したものと考えられる。

【[NITE SAFE-Lite](#) 検索キーワード例】

電気ファンヒーター 可燃物

■内部配線の断線（電気ファンヒーター）

事故発生年月 2023年1月（佐賀県、70歳代・男性、製品破損）

【事故の内容】

ネット通販で購入した電気ファンヒーターを使用中、電気ファンヒーター付近から異音がして、出火した。

【事故の原因】

内部配線の取り回しに不具合があったため、首振り時に内部配線の接続部に過度な応力が繰り返し加わり、半断線が生じて異常発熱し、焼損したものと推定される。

【[NITE SAFE-Lite](#) 検索キーワード例】

電気ファンヒーター 内部配線 断線

2-2. 石油暖房器具の事故事例

■給油口ふたの閉め忘れ及び締め付け不良などにより漏れた灯油に引火（石油ストーブ）

事故発生年月 2023年12月（兵庫県、80歳代・性別不明、死亡）

【事故の内容】

石油ストーブを使用中、石油ストーブ及び周辺を焼損する火災が発生し、2名が死亡した。

【事故の原因】

事故発生時の詳細な状況が不明のため、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品は、給油時にカートリッジタンクの口金が開いたため、当該製品にこぼれた灯油がかかり出火に至った可能性が考えられる。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

石油ストーブ 灯油 こぼれ

■ガソリンの誤給油（石油ファンヒーター）

事故発生年月 2022年4月（茨城県、50歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

石油ファンヒーターを使用中、建物を全焼する火災が発生した。

【事故の原因】

焼損が著しく、当該製品からガソリン及び灯油の成分が確認できなかったことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品は、灯油の樹脂製容器にガソリンの成分が認められたことから、ガソリンの誤給油により出火に至った可能性が考えられる。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

石油温風暖房機 ガソリン

■可燃物が接触して又は放射熱で出火（石油ストーブ）

事故発生年月 2021年9月（兵庫県、70歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

石油ストーブを使用中、建物を全焼する火災が発生した。

【事故の原因】

事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の上部に干されていた洗濯物が落下して発火したものと考えられる。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

石油温風暖房機 洗濯物

■清掃不足による異常燃焼や堆積物への引火（石油ストーブ）

事故発生年月 2022年11月（神奈川県、50歳代・男性、重傷）

【事故の内容】

石油ストーブから出火して周辺を焼損し、1人が重傷を負った。

【事故の原因】

事故品は、空気取り入れ口の下に炭化物の堆積が認められ、置台の表面に焦げつきや変色が認められたことから、置台に堆積したほこり等によりしん案内筒への空気の流入が阻害され、吹き返し現象が発生したものと考えられる。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

石油ストーブ 堆積

3. 電気暖房器具及び石油暖房器具の点検のポイント

電気暖房器具の5つの点検

☑1. リコール対象品かどうかを確認する。

電気暖房器具ではリコール対象製品での事故が多くなっています。使用している製品がリコール対象製品かどうかこまめに確認してください。

事業者、消費者庁、経済産業省及びNITEなどはホームページでリコール情報を掲載しており、お手持ちの製品がリコール対象製品かどうか確認できます。また、[8月のプレスリリース「リコール情報の”未読・既読スルー”はNG!」](#)にて、リコール情報の調べ方をまとめておりますので是非ご確認ください。電気暖房器具に限らず使用している製品がリコール対象になっていないか確認しましょう。

○消費者庁のリコール情報検索サイトのご紹介

「消費者庁リコール情報サイト」では、消費者向け商品のリコール情報を掲載しており、キーワードによりリコール情報を検索することができます。さらに、「リコール情報メールサービス」に登録することで、新規のリコール情報等が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/>

○NITE SAFE-Lite (ナイト セーフ・ライト) のご紹介

NITEはホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「NITE SAFE-Lite (ナイト セーフ・ライト)」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報やリコール情報を検索することができます。



<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html>

☑2. 電源コードや電源プラグが変形・破損していないか、コンセントがたこ足配線になっていないかを確認する。

電気暖房器具を使用する前に、以下の点に注意して電源コードや電源プラグを確認してください。また、電気暖房器具は消費電力が大きいため、取扱説明書で延長コードの使用が禁止されていることがあります。延長コードを使用する場合は、接続した機器の消費電力の合計が延長コードの最大消費電力を超えないように注意しましょう。

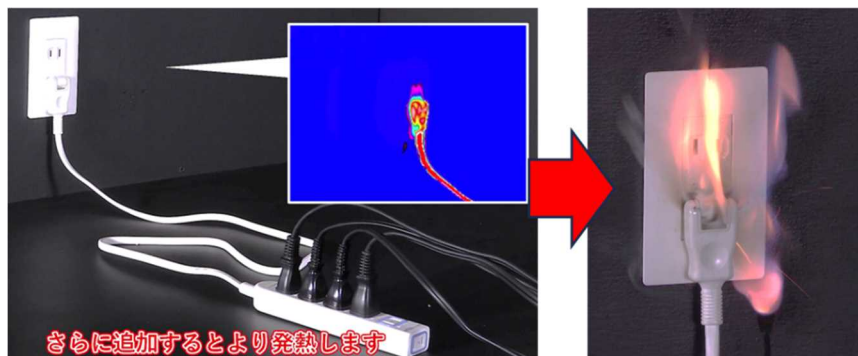
- ・電源コード … 被覆が破れていないか、亀裂が入っていないか確認する。
特に電源コードの本体側やプラグ側の根元付近を確認する。
- ・電源プラグ … 変形していないか、変色していないか、溶けていないか確認する。
コンセントが変形している場合もあるため、
コンセントに差したときに、緩く抜けやすくなっていないか確認する。



断線した電源コードの発火



外力で変形・破損した電源プラグの発火



消費電力の超過により発火

☑3. 機器と周囲の壁や可燃物との距離が十分に確保できていることを確認する。

電気暖房器具を使用するときは、壁や周囲の家具、衣類などから指定された距離をとりましょう。カーテンや布団など燃えやすく動くものにも注意が必要です。

電気暖房器具に可燃物が近接していたり接触したりしていると、放射熱^{※11}による過熱や高温部への接触によって、火災になるおそれがあります。

(※11) 放射熱とは、高温の物体が発する赤外放射などによって離れたところに伝わる熱。



電気ストーブにふとんが接触して発火



タオルが接触して発火

☑4. 本体に変色や変形等の異常がないかを確認する。

製品内部で異常が発生した際、炎が出る前に動作や外観上に異常が発生する場合があります。主に以下のような異常が認められた場合は、すぐに製品の電源を切って電源プラグを抜き、メーカーに相談してください。

- ・本体の一部が変色や変形していないか
- ・使用中バチバチという異音がないか
- ・ヒーターの加熱、首振り動作、温風ファンが時々停止することがないか
(電源コードを動かした際に停止する場合があります)
- ・焦げ臭いにおいがしないか、異常に熱くなっている箇所がないか

☑5. 転倒時オフ機能（転倒時オフスイッチ等）が正常に作動するか確認する。

転倒時オフ機能^{※12}は、地震で製品が転倒した際やぶつかって製品が倒れてしまった際に、ヒーターの加熱をとめる安全機能です。

以下の方法で動作を確認してください。（※ヒーター付近は非常に熱くなっておりますので火傷には十分ご注意ください。なるべく電源を入れた直後に確認してください。）

もし、ヒーターの加熱が停止しない等の異常が認められた場合は、製品の電源を切って電源プラグを抜き、メーカーに相談してください。

・ヒーターが点いている状態でヒーター側を上向きに倒し、ヒーターの加熱が停止するか確認する。

・2017年7月以降に製造された製品の場合は、上記に加えて、ヒーター側を上向きの状態で製品底面の転倒時オフスイッチを押してもヒーターの加熱が開始されないか確認する。

（底面にスイッチがない場合は、転倒させたあとに再度電源スイッチを入れて、ヒーターの加熱が開始されないか確認する。）



転倒時オフスイッチ

（※12）日本電機工業会の加盟メーカーでは1996年から順次転倒時オフ機能を追加しており、それ以前の製品では転倒時オフ機能がない場合があります。また、電気用品安全法としては2017年7月に改正され、それ以降に製造された製品では、転倒した状態ではヒーターが加熱されません。

石油暖房器具の5つの点検

☑1. ほこりがたまっていれば取り除く。

使用を始める前に掃除を行い、シーズン中も定期的に掃除をしてください。特に石油ストーブの置台や、燃焼部位の近くなどにほこりがたまらないようにしてください。

石油ストーブにほこりなどが堆積すると、燃焼状態が悪くなったり、炎が逆流して石油ストーブの下からあふれる「吹き返し現象」が生じてほこりに引火したりするおそれがあります。

また、石油ファンヒーターでもほこりにより空気取込口が閉塞することで異常燃焼する事故が発生しています。



(掃除不足の例)
置台にたまったほこり

☑2. 対震自動消火装置が正しく作動することを確認する。

対震自動消火装置が正しく動作することを確認してください。

確認方法としては、機器本体を前後に揺らしたときに、以下の動作が正常に行われているか確認してください。(確認方法の詳細は取扱説明書を確認してください。)

- ・【石油ストーブの場合】 芯を上げた状態から芯が下がりきること
- ・【石油ファンヒーターの場合】 使用状態から停止すること

☑3. 燃料は新しい灯油を使い、昨シーズンの灯油を使用しない。ガソリンを灯油とは別の場所で保管するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底する。

石油暖房器具には“新しい灯油”を給油してください。灯油は劣化するため、昨シーズンの燃料を持ち越して使用すると異常燃焼や多量の一酸化炭素が排出されるおそれがあります。

また、誤ってガソリンや混合燃料を給油すると、少量の混入であっても火災のおそれがあります。灯油は灯油用ポリタンクなどの専用容器^{※13}に、ガソリンは消防法に適合した金属製のガソリン携行缶に入れて保管し、別の場所で保管する、ラベル表示で区別するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底してください。

昨シーズンの灯油が残っていた場合は、タンクや機器本体から灯油を抜いて、灯油の処分については、灯油を購入した販売店に相談してください。

(※13) 日本ポリエチレンブロー製品工業会(JBA)推奨ラベル、危険物保安技術協会(KHK)の試験確認済証、JISマーク(JIS Z 1710 灯油用ポリエチレンかん)などが表示されているもの

灯油とガソリンの見分け方

指先に燃料をつけて息を吹きかける。(火気の無い所で行う)

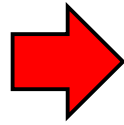


「灯油」は濡れたまま



「ガソリン」はすぐ乾く

出典：一般社団法人日本ガス石油機器工業会(JGKA)



ガソリンの誤給油により爆発的に燃え上がる様子（イメージ）

☑4. カートリッジタンクの給油口ふたが確実に閉まっていること、漏れがないことを確認する。

給油後は、給油口ふたがしっかり閉まっていることを必ず確認してから本体にセットしてください。また、給油する際は、必ず先に消火してください。

灯油が機器本体にこぼれた際は、機器内部に浸入しているおそれがありますので、使用を中止し、販売事業者や製造事業者に相談してください。

なお、2011年以降に販売された製品^{※14}では、灯油のこぼれを防止するために、給油口ふたが閉まっていることの確認がしやすくなっています。また、口金が外れても灯油がこぼれない構造のものもあります。

給油口ふたが閉まっているかの確認方法

1



ワンタッチ式

ねじ式

給油口ふたを引っ張り、閉まっていることを確認

2

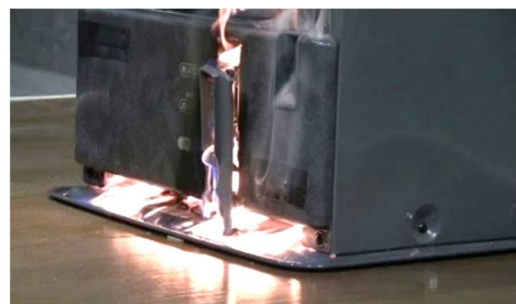


火気の無い場所で給油口ふたを下にし、灯油の漏れがないことを確認

（※14）石油ストーブ等の石油燃焼機器は、2009年に消費生活用製品安全法の「特定製品」に指定され、2011年以降に販売された製品では給油口ふたが音や目視または感触などで閉まっていることの確認ができる機能があります。



消火後間もない高温の燃焼筒に灯油がかかり引火（イメージ）



点火時、こぼれた灯油に引火（イメージ）

☑5. 機器と周囲の壁や可燃物との距離が十分に確保できていることを確認する。

石油暖房器具を使用するときは、壁や周囲の家具、衣類などから指定された距離をとりましょう。カーテンや布団など燃えやすく動くものにも注意が必要です。

石油暖房器具に可燃物が近接していたり接触したりしていると、放射熱^{※15}による過熱や高温部への接触によって、火災になるおそれがあります。

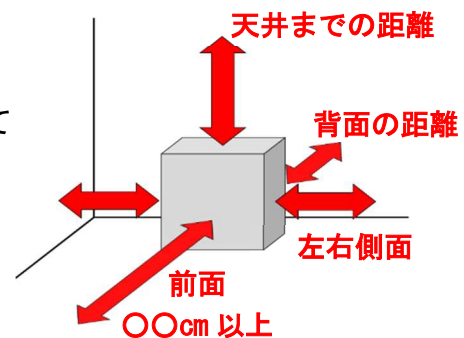
(※15) 放射熱とは、高温の物体が発する赤外放射などによって離れたところに伝わる熱。



可燃物との接触で発火

(距離表示の記載例)

取扱説明書に周囲の物や天井、壁などとの距離について記載があります。※距離は製品によって異なります。



お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 大下 龍蔵

担当者 製品安全広報課 宮川 七重、山崎 卓矢、清水 与也

Mail : ps@nite.go.jp

Tel : 06-6612-2066

石油ストーブの火災の消火方法・避難の目安について

(監修、再現動画の撮影協力：神戸市消防局)

火災発生時の消火方法・避難の目安について

○炎が背丈を超えていたら避難する。

火元の高さに関わらず炎が背丈を超えている場合や天井まで達していた場合、初期消火は困難となりますので、炎の高さが背丈を超えていたら避難するようにしましょう。

特に高齢の方は、消火しようとして逃げ遅れることが多くなっていますので、“身の安全を第一”に、身の危険を感じたり、迷ったりした場合はひとまず避難するようにしましょう。



背丈より高い炎のため避難している (イメージ)

○石油ストーブの火災は消火器で消火する。

石油ストーブの火災は消火器[※]で消火するようにしてください。また、初期消火をする前には必ず「安全確保」「避難経路の確保」を行ってから実施してください。

すぐに消火器をとりにいけるよう、事前にどこに消火器を置いているか、消火器が使いやすい場所にあるかを確認しましょう。

(※) 消火器の火災種別がB火災(油火災)対応のもの。

- ・ 消火器の使用方法等については以下を参考にしてください。

神戸市-住宅用消火器

<https://www.city.kobe.lg.jp/a10878/bosai/shobo/bouka/syoukaki/shoukaki.html>



消火器で消火

表 事故発生場所・発生年別の事故件数 (左：電気暖房器具、右：石油暖房器具)

	2019	2020	2021	2022	2023	総計
東京都	7	6	4	6	4	27
大阪府	8	7	5	3	2	25
神奈川県	2	5	5	3	6	21
愛知県	2	4	2	2	3	13
静岡県	4	2	3	1	3	13
埼玉県	2	1	3		4	10
千葉県	3	2	4	1		10
福岡県	1	1	1	4	3	10
兵庫県	1	1	5	2	1	10
北海道	2	3	1	4		10
岐阜県	2	2	1		4	9
京都府	4		2	3		9
三重県	3		1	1	1	6
滋賀県	1	3			1	5
石川県		2	1	2		5
茨城県	1			1	2	4
広島県	1	2		1		4
岡山県	1	1		1		3
宮城県			1	1	1	3
長崎県	1		1	1		3
長野県	1	1		1		3
鳥取県	1		1	1		3
愛媛県	1		1			2
高知県		1		1		2
佐賀県					2	2
青森県	1			1		2
奈良県				2		2
沖縄県			1			1
岩手県			1			1
宮崎県	1					1
熊本県				1		1
群馬県		1				1
山形県				1		1
山口県	1					1
山梨県					1	1
新潟県					1	1
大分県		1				1
福島県	1					1
和歌山県					1	1
不明	1					1
総計	54	46	44	45	40	229

	2019	2020	2021	2022	2023	総計
北海道	15	10	5	8	5	43
埼玉県	7	4	6	1	3	21
愛知県	2	7	5	2	5	21
大阪府	1	7	3		7	18
千葉県	3	3		6	4	16
群馬県	3	3		1	3	10
神奈川県	2		3	3	1	9
京都府	4	2		2	1	9
兵庫県	2	1	3	2	1	9
宮城県	2	1	3	1	1	8
東京都	3	1	1	1	2	8
岡山県	1	1		3	3	8
福岡県	1	1	1	1	4	8
石川県	1	1		2	3	7
滋賀県			1	4	2	7
青森県			2	4		6
秋田県	1	1		3	1	6
新潟県	1	1	3	1		6
岐阜県		2	1	2	1	6
岩手県		1	2	2		5
富山県	1	1	1	1	1	5
山口県	1		1	1	2	5
静岡県	2	1			1	4
福島県	1		1	1		3
茨城県	1	1		1		3
三重県	2		1			3
島根県	1	1		1		3
徳島県	2		1			3
愛媛県		1	2			3
長崎県	1	2				3
広島県				2		2
高知県				2		2
佐賀県	1	1				2
山形県		1				1
栃木県	1					1
福井県	1					1
山梨県					1	1
奈良県	1					1
和歌山県				1		1
香川県		1				1
熊本県			1			1
大分県			1			1
宮崎県	1					1
総計	66	57	48	59	52	282